

東京学芸大学教職大学院 英語教育サブプログラム における学び

このスライドでは、
英語教育サブプログラムにおける学びについて
ご説明いたします。

■教職大学院 英語教育サブプログラムにおける学び

- ◆英語教育サブプログラムでは、これまでに蓄積されてきた英語教育の実践と研究の成果を踏まえて、小・中・高等学校における英語教育の在り方を探求するとともに、**演習・模擬授業・実習等**を通して指導技術の向上を目指します。
- ◆英語教育の探求においては、英語の指導内容、指導方法、評価等について、**英語教育学的見地**から洞察を得るとともに、**言語学、文学・文化の観点**からも専門的検討を行います。
- ◆また、**言語習得のメカニズム**の解明や**指導効果**の検証など、英語教育に資する研究へのアプローチの仕方を学びます。

■教職大学院 英語教育サブプログラム 専門科目

英語教育サブプログラムの専門科目は以下の8科目です。

次のページから、これらの科目について説明いたします。

プログラム科目 (必修)

科目名	内容
英語科授業の指導と評価	英語教育における指導と評価について、知識を整理し、課題を検討します。
英語科の実践演習Ⅰ	小学校における英語授業力を高めます。
英語科の実践演習Ⅱ	中・高等学校における英語授業力を高めます。

高度選択科目

科目名	内容
英語科の内容構成開発と実践A	英語教育で扱う文法事項について、言語学的知見を得るとともに、指導力を高めます。
英語科の内容構成開発と実践B	英語教育で扱う題材について、文学・文化的知見を得るとともに、指導力を高めます。
英語科の高度研究開発法	英語教育に関わる研究を行うための考え方と方法論を学びます。
英語科の授業と教材・タスクA	英語教育の目標の「五つの領域」について、最新の理論を学び、その理論を教材開発に生かす力を身に付けます。
英語科の授業と教材・タスクB	第二言語習得研究の成果を学び、英語教育への示唆を検討します。

(1) 「英語科授業の指導と評価」

- ◆ 英語教育における**指導**と**評価**について、知識を整理し、課題を検討します。
- ◆ 2週を1セットとして、
 - **1週目**に授業担当教員による**講義・演習**
 - **2週目**に履修生による**発表・ディスカッション**を行います。
- ◆ 次のようなトピックを扱います (例)。
 - **学習指導要領**と英語教育
 - 英語の**文字**指導
 - 英語の**文法**の指導
 - 英語の**発音**指導
 - 英語の**語彙**の指導
 - 外国語教育における**評価**

(2) 「英語科の実践演習Ⅰ」

- ◆ 児童の学びに根差した**小学校**「**外国語活動**」「**外国語**」の授業をデザインし、実践する力を身につけます。
- ◆ 「授業者による講義・演習」「授業映像の視聴・討議」「履修生による模擬授業」を行います。
- ◆ 講義・演習では、次のような内容を扱います (例)。
 - 小学校英語教育の変遷と**小・中・高等学校の連携**
 - **子どもの学び方**の特徴
 - **目的・場面・状況の設定**および言語活動の重要性
 - **教材・教具**
- ◆ 授業映像の視聴・討議及び履修生による模擬授業では、次のような内容を扱います (例)。

➢ 「外国語活動」(3・4年生)の授業	➢ 「外国語」(5・6年生)の授業
➢ 聞くこと・話すこと の指導	➢ 読むこと・書くこと の指導
➢ 題材 の工夫	➢ 教材・教具 の工夫

(3) 「英語科の実践演習Ⅱ」

◆**中・高等学校**の生徒の学びに根差した外国語の授業をデザインし実践する力を身に付けます。

◆2週を1セットとして

- **授業映像**の視聴・討議
- 指導案の作成と**模擬授業**

を行います。

◆次のような内容を扱います (例)。

- **中学校1年生**の授業
- **中学校2年生**の授業
- **中学校3年生**の授業
- 高等学校「**英語コミュニケーション**」の授業
- 高等学校「**論理・表現**」の授業
- **多様な生徒**を対象とした授業

(4) 英語科の内容構成開発と実践A

◆小・中・高等学校の英語教育で扱う文法事項について最新の言語学的知見を得るとともに、それらを小・中・高等学校において児童・生徒に効果的に指導する力を身に付けます。

◆2週を1セットとして

- 履修生による指導案作成・模擬授業・ディスカッション
- 授業担当教員による言語学的分析

を行います。

◆次のような内容を扱います (例)。

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| ➢ 基本的な文型 (SV/SVC/SVO) の指導 | ➢ 基本的な文型 (SVOO/SVOC) の指導 |
| ➢ 現在進行形／未来表現の指導 | ➢ 現在完了形／現在完了進行形の指導 |
| ➢ 接触節／関係節の指導 | ➢ 仮定法の指導 |

(5) 英語科の内容構成開発と実践B

- ◆ 小・中・高等学校の英語教育で扱う題材について、最新の文学・文化的知見を得るとともに、指導者として題材を深く読みとる力を身につけます。合わせて、限られた授業時間の中でも指導可能な具体的な指導方法を身につけます。
- ◆ 各校種で扱う題材と連動する文学作品・映像作品を発掘し、具体的な指導方法について議論します。また、英語で書かれた作品を読み、テーマを設定し模擬授業を行います。
- ◆ 次のような内容を扱います (例)。
 - 英米文学研究の意義
 - 異文化理解・intercultural studies の意義
 - 英語教育とトランスナショナリズム
 - 文学批評史
 - 文学・文化演習 散文／韻文／映像／児童文学

(6) 英語科の高度研究開発法

- ◆ 英語教育に関わる**研究を行うための考え方と方法論**を身に付けます。児童・生徒の**学びと教師の指導実践に資する情報を得る**ために、また、指導実践の改善に資する**エビデンスを得る**ために、学術研究の最新の知見を踏まえて研究目的を設定し、妥当な方法でデータ収集と結果の解釈を行うことのできる力を身に付けます。

- ◆ 英語教育の研究方法について概観したうえで、履修生は設定されたテーマについて**研究デザインを考えて発表**します。その後、履修生・担当教員が協働的に討議し、より妥当性・信頼性・実行可能性の高い研究の在り方を追求します。

- ◆ 次のような内容を扱います (例)。
 - 研究活動における**倫理**と配慮事項
 - 教科書・教材の分析
 - 外国語の**学習開始年齢**と習得
 - ICTの効果
 - **文型指導**と英語習得
 - 英語教員の**養成・採用・研修**
 - **英語科教育**の特質
 - **良い英語の授業**とはなにか
 - **英文和訳テスト**の妥当性
 - 英語教育における**パフォーマンス評価**

(7) 英語科の授業と教材・タスクA

- ◆ 学習指導要領に示されている**五つの領域**（「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」について、最新の理論を学び、その理論を校種や学習者の英語運用能力に応じた教材開発に生かす力を身に付けます。

- ◆ 領域ごとに設定されたテーマに沿った**タスクの設定**や**教材の開発**を協働で行います。各グループが発表する教材・タスクの企画案について**ディスカッション**をし、そこで指摘された問題点を改良した教材を使って**模擬授業**を行います。開発した**教材・タスクを実際に実習校で使った結果**を報告し合う機会も持ちます。

- ◆ 次のような内容を扱います (例)。
 - **絵本**を活用した児童用リスニング教材の開発
 - 「**話すこと（やり取り）**」の能力向上を目指す教材の開発
 - 英語による**スピーチ指導**に役立つ教材の開発
 - **読解スピードの向上**を意図したリーディング教材の開発
 - **検定教科書の挿絵・写真**を活用したライティング教材の開発
 - 「**日本語と英語の語順の違い**」の気付きを促す視聴覚教材の開発

(8) 英語科の授業と教材・タスクB

- ◆ **第二言語習得研究**の成果を学び、その成果から日本の学校英語教育の在り方や指導法を多角的に考察することができるようになることを目指します。第二言語習得研究で提唱されている**理論の概要**を理解した上で、**研究の成果**からわかったことを日本における英語教育の現状に当てはめて考えることを通して、課題とその解決策を考えます。

- ◆ 次のような内容を扱います (例)。

鈴木孝明・白畑知彦 (2012) 『ことばの習得 母語習得と第二言語習得』 (くろしお出版) から

第Ⅰ部 母語獲得	第1章 母語獲得とは	第2章 言語音の知覚と語の獲得	第3章 文の獲得
	第4章 インプットの役割	第5章 言語獲得理論	

第Ⅱ部 第二言語獲得	第1章 第二言語習得とは	第2章 中間言語	第3章 第二言語習得のメカニズム
------------	--------------	----------	------------------

Bill Van Patten and Jessica Williams (eds.) (2015) *Theories in Second Language Acquisition: An Introduction* (2nd edition) (Routledge) から

Chapter 2: Early Theories in SLA	Chapter 5: Usage-Based Approaches to SLA
Chapter 6: Skill Acquisition Theory	Chapter 9: Processability Theory
Chapter 10: Input, Interaction, and Output in Second Language Acquisition	
Chapter 11: Sociocultural Theory and Second Language Development	

■自主ゼミ

これまでにご紹介した授業のほか、英語教育サブプログラムでは院生による自主ゼミとして

- ・専門分野に関する内外の**単行本**を1日で1冊読むゼミ
- ・専門分野に関する**論文**を数本まとめて1日で読むゼミ
- ・第二言語習得や英語教育の研究のための**統計処理**を学ぶゼミ

などが開かれ、院生たちが積極的に自主的な学びを進めています。

■課題研究／専門学術論文

課題研究／専門学術論文の遂行に当たっては、

- ・教員と院生がともに参加する**研究デザイン検討会**や**中間発表会**が設定されています。
- ・院生による**自主的な検討会**も設定されています。
- ・**1年次にプレ研究**を行い、**2年次に本研究を行う**、という2段階で研究を進めていきます。
(1年履修者は1年間で本研究を行います。)